

稲WCSを給与した乳用牛の血中抗酸化ビタミンの測定

乳用牛は分娩前後に肝臓で多くの酸素を使い、その副産物として活性酸素が産生されます。この活性酸素が過剰になる状態を「酸化ストレスが増える」といい、産後に体調を崩す原因になります。

稲WCS※1には、この酸化ストレスを抑える抗酸化ビタミン「βカロテン」や「αトコフェロール」が多く含まれていることから、当センターでは、乳用牛の分娩前後に稲WCSを飼料として与えることで、酸化ストレスを低減する試験をしています。

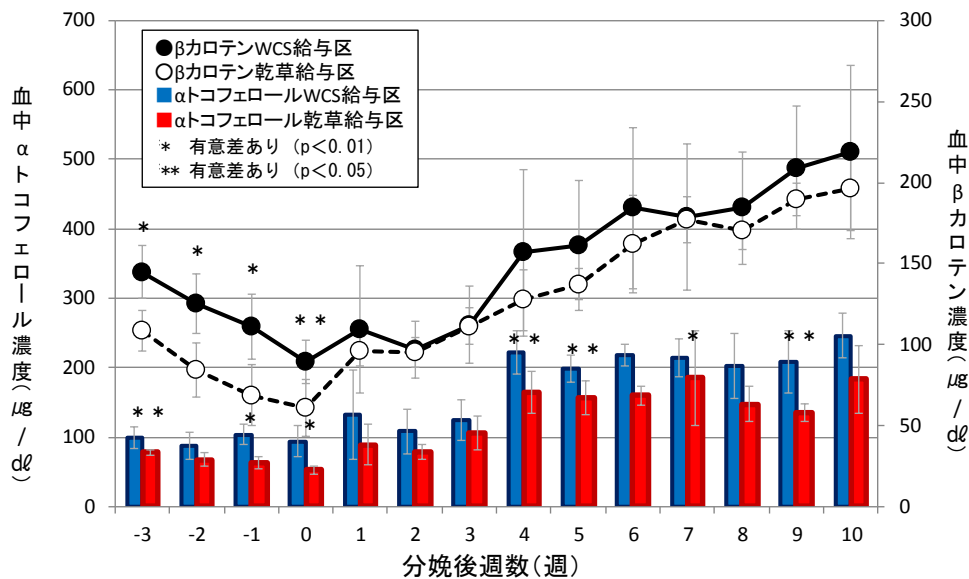
血液検査の結果、分娩予定3週間から

稲WCSを給与していた群は、対照群と比較して、βカロテンやαトコフェロールの濃度が高い傾向にありました。

今後は、稲WCS給与時の酸化ストレスマーカー※2などを測定し、抗酸化ビタミンが実際に酸化ストレスに及ぼす影響を調査します。

※1 稲WCS（ホールクロップサイレージ）：
稲の穂と茎葉を同時に収穫し、発酵させた飼料

※2 酸化ストレスマーカー：活性酸素によって生じた生体内産物や抗酸化物質のことで、酸化ストレスの指標となる



稲WCS給与時の血中抗酸化ビタミンの推移

【管内情報】

府内農業系高校生が和牛の体型審査技術を競う

京都府学校農業クラブ連盟主催（事務局：久美浜高校）の「和牛審査競技会」が8月8日、当场で開催されました。この審査競技会は、農業系高校の生徒が和牛審査を通じて、畜産への理解を深め、農業の担い手としての意欲を高めることを目的に、毎年夏休み期間中に開催されており、当场職員が講師を務めています。

今年は、府内3校から28人の生徒が参加し、モデル牛を使って審査項目と判定ポイントの説明を受けた後、子牛4頭と育成雌牛4頭の審査・順位付けに熱心に取り組み、最優秀者に表彰状とトロフィーが授与されました。

今後も教育機関からの協力要請を積極的に受入れ、家畜や畜産物に興味を持つ

生徒に体験実習の場を提供していきます。



牛を審査する高校生たち
畜産センター碓高原牧場

令和元年度乳用育成牛譲渡を開始

— 酪農家でのこれからの活躍に期待！ —

当场では、毎年、春先に府内の酪農家から乳用子牛を受け入れ、放牧することで足腰のしっかりした牛に育てるとともに、和牛受精卵を移植して、秋に妊娠牛として農家へお返しする「乳用育成牛譲渡事業」を実施しています。

今年も8月23日に、南丹地域を中心に酪農家6戸へ6頭を譲渡しました。今年譲渡の牛たちは昨年度の牛たちよりも長い期間放牧に出ており、引き締まった体格となっています。今後も、24頭について分娩間近になる牛から順次譲渡していく予定としており、当场育ちの牛たちが、長く酪農家の中心的な搾乳牛として活躍することを期待しています。



譲渡前に候補牛を評価



酪農家へ輸送される妊娠牛
畜産センター碓高原牧場